

信州は冬こそ楽しまなくちゃ
この季節知らねばもったいない!



四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテンで何してん!?

「結構面白いんですよ、薪割り」
とりこになる薪ストーブの魅力

緑ヶ丘クラインガルテン 312号

森 昭夫さん・康美さん夫妻

奈良県境に近い京都に家を持つ森昭夫さん(68)。ひと月の3分の2は、クラインガルテンに滞在しています。

そのペースは夏も冬も

同じ。厳冬期でも、窓越しに雪を眺めながら「いやされるんだよねえ」と和んでいる森さんの姿が…。冬をとりわけ楽しんでる訳は、薪ストーブ

を味方にしていくからなのです。

「引退したら田舎暮らしをしよう」と情報を集めていました。若いころから信州へは夏山登山やスキーで通っていましたからこと森さん。独身時代には北アルプスの表銀座、裏銀座をほぼ踏破し、家族を連れて志賀高原や白馬八方などでスキーを楽しんでいた山遊び派。3年続けて抽選に挑み、念願の信州暮らしを手に入れました。

ラウベの壁と床に貼られているレンガで、薪ストーブが設置可能と知った森さん。早速、四賀むらぶくり(株)の紹介で松本市内の薪ストーブ専門店・暖爐館を訪れ、憧れの薪ストーブを購入しました。「薪ストーブの会」にも入会し、労を惜しまなければタダで手に入る薪を調達。森林組合などの情報を得て、河川敷や里山を整備しながら集めています。

庭の脇には、胸の高さまで積まれた薪がずらり。チェンソーで、玉切りした薪を目掛けて小気味よく斧で割っていきます。「これが結構、面白いんですよ! 小学校低学年までは薪で焚いた五右衛門風呂でしたから」と楽しんでます。

「寝る前に2〜3本薪をくべる

と、朝方まで燃えています。こうして野菜を入れたダッチオーブンを丸ごと火の上に乗せれば、料理も簡単。今はもつとレパートリーを増やしたいと思っています。化石燃料に頼らないのでエコなのは勿論、安全なのが何より。」とストーブに夢中です。

「せっかくなので1年間借りているのだから冬を楽しまなくちゃ、もったいない! それには薪のストーブが一番。冬から春を迎える芽吹き季節感が、一番いいですよ。もう少し暖かくなれば、花の好きな家内と娘が来てくれて、ラウベの回りをいろんな花でいっぱいにしてくれます。来シーズンは、地元の人に狩りのような山遊びに連れて行ってもらえたらなあ」と目を輝かせています。

